

白い手

大森 海太

先日、いつものコースでいつもの仲間と締まりのないゴルフをしたあと、クラブハウスのパイ飲^やって帰りの電車ではついウトウト。気がついてみると、となりの席に二十代前半とおぼしき立派な青年が座っていて、しきりにスマホをいじくっている。仕事でもしているのかとのぞいてみると、なんのことはない、アニメの女の子たちが入れかわり立ちかわり飛び跳ねるゲームに熱中しているのだ。脇目もふらずに絶え間なく画面をヒットしている。

でも驚いたのはそのことではない。小刻みにたたき続けるその手が真っ白なことにびっくりしたのである。血管ひとつ見えない手の甲、まっすぐで細い指、きれいな爪。思わず自分の手に目をやると、ゴルフ焼けして静脈が浮き出し、しわが寄り、指は節くれだつて爪もなにやら汚らしい。

手はその人の半生を刻み込んでいる。私だって学生時代にはポートを漕いだし、ゴルフは五十年以上、以前は庭仕事もしたし今でも朝粥の支度と後片付けは毎日だ。農業やそのほか様々な労働に携わった人たちは、もつとごつつい手をしているだろう。それにひきかえこの青年の華奢^{はしゃ}な白い手はなんだ。箸より重いものは持ったことがないというのはこんなのを言うのだろう。

イヤ、こいつに限ったことではない。次の世代では力仕事、手仕事はロボットまかせ、文書作成はチャットGPT、なんでもかんでもAIに頼りきり、ヒマにまかせてゲーム三昧みたいな青白い連中が世の中を取り仕切っていくのではなからうか。

その昔、我々の祖先（現生人類）はネアンデルタール人などの旧人類に比べて身体が小さく体力的に劣っていたが、七万年前アフリカを出るところから言葉を話すようになり、その情報量、伝達力を武器として旧人類を絶滅させたという。

なんだか私みたいな爺さんたちは昔の旧人類同様、白い手の諸君に滅ぼされるのかもしれない。そんなことでいいのか？ 日本はどうなるのだ？ アトのない爺さんの心配のタネは尽きることがない。